

大阪府商工会議所女性会連合会 研修交流会に参加して

中央漁具(株) 取締役 橋本 純子

平成26年11月17日、大阪府内12女性会から72名が午前、午後に分かれ、日本銀行大阪支店本館(重要文化財)の史料展示室と新館1階営業場を見学いたしました。日本銀行の象徴ともいえる青色のドーム屋根を持つその場所は聖域ともいえるでしょう。現大阪クラブ、住友銀行本店の場所から移転を重ね1903年辰野金吾氏の設計により現在の姿になりました。

日本銀行は日本でただひとつお札の発行ができる銀行として、国はその口座に税金などを入金させ第一次世界大戦後のドイツの超インフレ、1929年のアメリカ大恐慌など、第二次世界大戦後のわが国の金融政策者として、大きな役割を果たしてきました。展示室にはその歴史史料の展示をはじめ偽造防止のいろいろ、例えばマイクロ印刷で(NIPPON GINKO)を具現化した文様による偽造防止など、その技術の素晴らしさに感服いたしました。

旧館は迎賓館として使用されていて、天井の絵、ステンドグラスの窓、温水暖房器、調度などが当時のまま現在も活用されていてその重厚さは見応えがありました。

旧本館と新館を結ぶ中庭にある、江戸時代からの由来を持つ樹齢130年のクスノキ、樹齢200年以上過つイチョウの木に圧倒されました。

機会を見つけて一度見学していただくことをお勧めいたします。



文楽鑑賞会・懇親会に参加して

八木産業(株) 代表取締役会長 八木 洋子

4月14日火曜日、「文楽鑑賞会・懇親会」に参加しました。

雨曇りで花冷えのする日ではありましたが、文楽劇場の中は満席で熱気に溢れておりました。昨年は人間国宝の竹本住大夫師引退があり、また今年には人形遣いの吉田玉女さんが二代目吉田玉男を襲名され、話題が多く聞かれる文楽ですが、今回はその二代目襲名披露公演でした。滅多に観ることのできない、玉男さんの襲名披露口上も間近に観ることができ、文楽を身近に感じることができました。

人形浄瑠璃文楽を3作品鑑賞させていただき、作品ごとの人形の動きや語りにも陶酔いたしました。大夫・三味線・人形の三業が一体となって作り上げる舞台芸術は、本当に素晴らしかったです。三人遣いの人形操りは世界でも独特で、人形のひとつひとつの動きも見逃せませんでした。また機会があれば、人形浄瑠璃を拝見したいと思いました。今回は、日本文化の素晴らしさを再確認できるひとときでした。

11時からの観賞会は15時まで、そのあとはシェラトン都ホテル大阪にて懇親会でした。20階からの大阪の街景色は、雨上がりでさらに美しく、お食事も春を感じるおもてなしで美味しかったです。テーブルごとの会話は尽きず、社会で働く経営者同士の話題は、政治から子育てまで幅広く、笑いあり涙ありの楽しく有意義な時間を持つことができました。

社会で活躍する商工会議所女性会のメンバーで集う会は、いつも元気で楽しい素敵な会です。次回も多くの方々と御一緒したいと思います。



平成27年度の主な事業予定

年月	事業
4月14日(火)	文楽鑑賞会・懇親会
5月21日(木)	【近畿女性会連合会】 第27回総会・洲本大会
6月24日(水)	平成27年度通常総会&発表会
7月頃	【大阪府女性会連合会】 理事会
9月~11月	【大阪府女性会連合会】 研修・交流会
10月6日(火)	経営事例発表会
10月22日(木) ~23日(金)	【全国女性会連合会】 金沢全国大会&エキスカージョン
11月~12月	視察研修会
平成28年 1月	新年互礼会
2月	経営事例発表会
2月	【近畿女性会連合会】 理事会&会長会議
3月	【大阪府女性会連合会】 総会&講演会

広報から

初夏の訪れを感じるさわやかな毎日、皆様にNOW春号をお届けする季節となりました。

女性会に入会して初めてのNOW発行に参加し、女性会の年間活動の概要を知ることや広報委員会の活気のある空気に触れることができました。これから一年間、女性会の活動でさまざまな学びをさせていただくとともに、広報委員の一員として、女性会の活動を皆様にお届けできるよう頑張りたいと思います。

最後になりましたが、寄稿いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

アーカス総合法律事務所 弁護士 末永 京子

※掲載している役職は、全て開催当時のものです。

大商女性会 編集発行/大阪府商工会議所女性会(大阪府商工会議所総務広報部内)
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8 TEL:06-6944-6211 FAX:06-6944-6250

NOW

Vol.32 2015 春号

平成27年 新年互礼会

ゆり工房 代表 中村 百合恵

平成27年1月23日正午から、帝国ホテル大阪で堀内智子副会長の司会のもと、133名の出席により、開催されました。尾崎公子名誉会長のピアノ伴奏で「としのはじめ」の合唱のなか大阪府商工会議所佐藤茂雄会頭、小嶋淳司副会頭をお迎えしました。池上淳子会長が「本年も各委員会の団結のもとに、220名の会員増強をはかり、各自会員としての誇りをもって前進しましょう」と頼もしく開会の挨拶をされました。尾崎名誉会長から昨年の近畿商工会議所女性会連合会大阪大会の大盛況の各方面への謝辞ののち、「時間の使い方は命の使い方であり、心の引退しない人生をひたむきに生きたい」と、示唆に富むお言葉をいただきました。続いて佐藤会頭のウィットに富んだ女性会へのあたたかいエールと乾杯のご発声をいただき、なだ万の新春にふさわしいお料理で、華やかな宴となりました。食後は関西学院グリークラブ総勢13名の清々しくも力強い歌声が会場に響きわたり、心洗われるひと時でした。その後、全員で「ふるさと」を合唱し、尾崎名誉会長の「琵琶湖周航の歌」のピアノ演奏とともに、佐藤会頭、小嶋副会頭を感謝の気持ちをこめて拍手でお見送りいたしました。

最後に、河内幸枝副会長から「来年もみんな揃って出席できますように…」とのあたたかい閉会の辞でおひらきとなりました。経験ゆたかな先輩会員と、若さみなぎる若い会員のエネルギーが相まみえて、たおやかな力がみなぎっている互礼会となりました。



平成27年大阪府商工会議所女性会連合会 総会・講演会

(株)伊東商事 代表取締役 永井 理彦子

当日は春らしい陽気に恵まれ、中の島の景色を望むリーガロイヤルホテル大阪・山楽の間に府下の仲間251人が集いました。お久しぶりの方も、また初めましての方もいらっしゃって会場は華やかながらも熱気にあふれておりました。いつものように尾崎公子名誉会長のご伴奏で女性会の歌を合唱し和気あいあいと着席しました。

池上淳子会長からは近畿大阪大会成功の御礼をはじめとする、大阪女性会の行事報告とともに、本日のご講演者のご紹介をいただきました。また尾崎名誉会長からはいつもの元気あふれる機知にとんだご挨拶をいただき、大阪女性会に所属できることの幸せを再確認しました。その後は着席スタイルで議事進行が行われいづれの議案も大変スムーズに可決されました。

連合会副会長丸谷優子さまのご発声にて乾杯のあと、神戸吉兆湯木さまより渾身の松花堂弁当の解説付きで、皆様と楽しく舌鼓を打たせていただき目も胃袋も大満足しました。

充実の会食の後は、お待ちかねの塩野義製薬株式会社専務執行役員澤田拓子さまのご講演がありました。男女雇用機会均等法が施行される前、男性社会の製薬会社の中で着実に昇格されながら責任のある地位での結婚、出産、子育てを親族のいないアウェイにて孤軍奮闘なされたことなどを拝聴いたしました。お話の中でもことに保育所が終わってからの時間帯のご苦労などは皆さん身を持ち出すように聞き入っておられました。澤田さまの好きな言葉がスクリーンに映し出されると思わずシャッターを押す方もいらして大変実りある講演会となりました。

これから女性の社会進出のためには、是非澤田さまのような経営陣がお一人でも増えてくださることを期待し、別れを惜しみながら山楽の間を後にいたしました。



視察研修会に参加して

(株)ラ・ユニーク 代表取締役社長 田路 朋子

11月7、8日の大分視察研修に31名が参加し「レンブラントホテル大分」で今川大分会長のリーダーシップのもと、祝舞の能楽「養老」、広瀬知事の講話等充実した交流会をもちました。次に日田市小鹿田焼きの里を視察後、竹を細工した幻想的な千年明かりを見学しました。宿泊の「亀山亭」での夕食会は二艘の屋形船に分乗し、大分の皆様から身も心も温まる郷土料理のおもてなしを受けました。日田市長、日田商工会会頭との交流、威勢のよいお囃子や民謡が川面に流れ夜空には満月が煌々と輝き両女性会の前途を祝してくれました。翌日は日田天領水の里の見学、私塾威宜園では歴史と文化を学びました。美しい町並みの豆田町散策を楽しんだあと、いよいよ大分最後になる昼食を「料亭若の家」でいただきました。終始歓待して下さった大分の皆様に池上会長は「熱烈歓迎、感謝感激」と伝え私達も感謝をこめて、お土産パワーを発揮し、至福の思い出を胸に帰路につきました。



今治商工会議所女性会との交流会

相互タクシー(株) 代表取締役社長 小野 幸親

去る11月12日、今治商工会議所女性会の皆様をお迎えし、交流会が開催されました。尾崎公子名誉会長の歓迎の挨拶や両会の会長の挨拶のあと、双方の活動概要の紹介が行われました。今治商工会議所女性会では、今治市民まつりなど地域の行事への積極的な参加や電力会社と共同で企画された料理講習会、四国八十八ヶ所霊場視察研修などの四国ならではの活動のほか、ベトナム視察研修など、海外にも広く目を向けた活動しておられるとのことでした。当会も日頃盛りだくさんの行事を企画し、活発な活動を行っておりますが、今回の交流会で伺ったお話は、今後の当会の活動にも参考になることが随分ありました。また、全国的に有名な今治タオルを代表とした地元ブランドのご紹介もありました。今回の交流会は一時間程度のごく短いものではありましたが、終始和やかな雰囲気の中で行われ、両会の懇親を深める良い機会となりました。



大阪ダックツアー・夕食懇親会に参加して

(有)ワカバ 代表取締役 峯 真貴子

11月19日水曜日「大阪ダックツアー&夕食懇親会」に参加しました。寒さは感じたものの天候に恵まれ、水陸両用バスに乗り込み季節の香りと風を感じながらのツアーは最高に楽しめました。吉本芸人顔負けの女性ガイドさんの案内は楽しく、大阪の歴史、浪速の街を説明していただき、新たな発見をさせていただくことができました。御堂筋の銀杏はまだ紅葉とはいえないまでも、大川の川辺の木々は見事なまでに色づきはじめており、川辺と夕日と紅葉のコントラストが言葉ではいい表せないほどの絶景でした。一時間半のツアーはあっという間に終わってしまい、チャンスがあればまた乗ってみたいと思いました。懇親会はグランフロント大阪南館8階「リュミエール大阪KARATO」で行われました。ミシュランガイドで星をとり続けている唐渡シェフの織りなす美食メニューに舌つづみです。現代風野菜フレンチで、スペシャリテの「野菜の遊園地」に目も舌も満足させていただきました。美味しいお食事、皆さまとの楽しい会話、大阪の夜景といいことづくめの懇親会でした。女性会パワーを感じての一日を過ごさせていただきありがとうございました。



経営事例発表会《平成27年2月18日(水)2月例会》

(株)日宣 代表取締役 古澤みちよさんのお話をお聞きして

(株)グループ・エコ 代表取締役社長 平松 悦子

(株)日宣代表取締役の古澤みちよさんは、約1年間のイギリス留学ののちに帰国し、大学へ進学して経営学を学びました。学生時代の海外滞在の経験から日本を客観的にみる習慣や忍耐力を身につけたと云うことです。

大学卒業後、大手企業に入社し、総合職として働きはじめました。周囲の協力が得られず苦勞をしたこともありましたが、古澤さんの能力を認める上司の言葉に励まされたそうです。

その後、1990年に結婚をして一男一女の母となり、2008年に(株)日宣に入社しました。同社は、夫の実家が経営する会社であり、夫の母の勧めで入社を決意したそうです。義母は古澤さんに人生の転機を与え、引き際の大切さを教えるなど、人生に少なからず影響を与えた方だったようです。また、こうした過去の人との出会いや経験から、いつも自分の周りの人を大切に、人を繋げることを心がけているそうです。

(株)日宣は創業54年と歴史がある会社であり、元々は映画や企業などのキャンペーンをマスコミに宣伝する業務を行っていましたが、現在は、ダイニングバーの経営など飲食業界にも事業を展開しています。このように発展を続けている会社ですが、7年前は社員の育成、新事業の停滞、経理の不備など様々な問題を抱えていました。古澤さんは、チームを作り、現場と一体感をもって前向きに問題点の改善に取り組みました。

常に改革を行い、社員を育てながら、自らも成長とともに歩む古澤さんの姿勢を拝見し、とても素晴らしい経営者だと思いました。



(公財)山本能楽堂 事務局長 山本佳志枝さんのお話をお聞きして

井上金属工業(株) 監査役 井上 智恵子

「ようこそ能楽堂へ」大阪の伝統芸能の普及活動を国内はもとより海外にも発信されているというお話でした。山本能楽堂は昭和2年現在地(中央区徳井町)に建設された、大阪で歴史の一番古い木造3階建の建造物です。人間に例えれば米寿の年を迎えられました。最初の舞台は戦火で焼失。昭和25年に再建され、その後平成23年に民間建物として、国で初めての改修工事がなされました。平成18年、伝統ある貴重な建物として有形文化財に指定され、平成21年に内閣府から認定を受け「公益財団法人山本能楽堂」と名称が改められました。地下鉄谷町4丁目から2分ほどのオフィス街に位置しているとは思えないとても静かな空気が漂っています。御主人である代表理事の山本章弘様は重要無形文化財保持者であられ、幅広い世代に向けて能楽伝承の普及活動に努めていらっしゃいます。平成21年より26年の間に「第42回博報堂賞」、「第5回ティファニー財団日本文化大賞」など七つの賞を受けられました。海外公演をスロバキアや親日家の多いブルガリアなど東ヨーロッパほか各地で行い、能楽を世界へ広めておられます。また、タイ首相夫人を能楽堂へお招きされたこともあり、これからはアジア各国にも日本文化の伝統芸能を伝えていくお考えもあるようです。次世代を担う子どもたちへの普及活動にも注力されています。小学校19校(約5,000人に及ぶ児童)に出向き公演した時は、児童自らボール紙に色を重ね、能舞台の松を飾ったこともあったそうです。子どもたちはそのような経験を通じ「能」を共演した思いで鑑賞したことで、このようにさまざまな形で能楽の普及が続いている様子が山本様のお話から伺えました。上方伝統芸能や色々な日本の芸事を、この最新設備の整った能楽堂で鑑賞させていただくことは、大阪人にとって大変幸せなことだと思います。3月の末には能楽堂を春の花で美しく彩り「花と文楽とのコラボレーション」の企画もあるようで、今からとても楽しみです。「能の世界は男性社会でピラミッド式の上下関係を覚えました。」とおっしゃった山本様は、その厳格な組織の中でパイプ役となって、古典芸能の伝統を裏方からしっかりと支え護っていらっしゃいます。後日、床暖房の設備が整った能楽堂へ友人を誘い鑑賞に行き参りました。「とくい能」夜7時半開演、幽玄の世界の扉をそっと開けました。そこには檜皮葺きの屋根に、堂々たる老い松と若竹が映える鏡板、黒光りする舞台が広がっていました。わかりやすく解説をいただいたあとの「能」は内面の心情がよくわかり、大いに楽しむことができます。静かな空間にホットする春の宵、ストレス解消のひと時でした。コンサート会場、プライベートな記念日や結婚式なども行える様々な文化交流の場として立派な能楽堂を利用できることも知りました。これからも仕事帰りに気軽に能楽堂へ足を運びたいと思います。

